

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 伝統的建造物等技術伝承促進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部文化伝承課 記念物保護係 電話番号：058-272-1111(内 3568)

E-mail：c11146@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,200千円(前年度予算額：3,200千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,200	946	0	0	0	0	0	0	2,254
要求額	3,200	1,336	0	0	0	0	0	0	1,864
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

県内の伝統的建造物を着実に未来に継承していくには、伝統的技法を熟知した職人・技術者による維持補修が欠かせないが、地域においてはそうした人材が少なくなっており、伝統的技法の伝承が喫緊の課題となっている。

加えて、伝統的技法の伝承においては、建造物に限らず、それらを支える「道具」の確保も課題となっており、今や道具の生産事業者が限られ、専門道具の多くを県外から調達している中で、今後10年、20年先を見据えた対策が必要とされている。

(2) 事業内容

森林文化アカデミーが中心となって、伝統的技法を支える「道具」の使用者、供給者等の関係者によるパネルディスカッションの開催や、ホームページを通じた情報発信を行うなど、「道具」の現状や今後のあり方について考える機会を創出する。また、国史跡「高山陣屋」において、伝統的建造物の維持補修に関する研修会を開催するなどの人材育成を進める。

- 1) 道具に関する詳細調査・情報発信 1,747 千円
 - ・「道具」の需要、供給、流通等関係者への調査
 - ・「道具」に関するウェブページの開設
- 2) 「道具」の未来を考えるパネルディスカッション等の開催 1,074 千円
 - ・調査報告発表会、道具関係者によるパネルディスカッションの開催
- 3) 人材育成・支援 379 千円
 - ・民間主導の技術研修組織「高山陣屋樽へぎ研究会」の活動支援

(3) 県負担・補助率の考え方

本県の文化芸術資源の「多様な価値」の創出につなげる取組みとして、県の負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額（千円）	事業内容の詳細
旅費	528	費用弁償、業務旅費
委託料	2,000	研究発表会開催委託
その他	672	講師謝金、事務消耗品、会場借上げほか
合計	3,200	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画等での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略
 施策編 3 (1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

(2) 事業主体及びその妥当性

県内に残る伝統的建造物に係る技術を確実に保存・伝承するため、技術を持った人材の育成及び、それを支える「道具」の伝承の在り方を調査研究する事業であり、県が事業主体となることは妥当である。

事業評価調査書

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
県内の伝統的建造物等を着実に保存・継承していくため、伝統的技法を熟知した人材を育成するとともに、それを支える道具について調査し、その成果をパネルディスカッション等にて発信・共有を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
パネルディスカッション等 参加者数				150人 (R1)	100人 (R3)	150%

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

- ・伝統的技法を熟知した人材の育成を進めるとともに、それを支える道具の現状について調査を継続実施。

(前年度の成果)

--

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	<p>県内の伝統的建造物の伝承に向けた事業であり、県が実施することが妥当。</p> <p>また、伝統建築を継承する技術は、ユネスコ無形文化遺産への登録を目指しているものであり、その技術伝承への支援にもつながる当事業の必要性は極めて高い。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) △	<p>道具の需要、供給、流通等関係者へのヒアリングによる実態調査が新型コロナウイルス感染症の影響で進まず、適切な情報発信ができていない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	<p>実施にあたっては、有識者意見等を踏まえ、効率的に実施する。</p>

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>伝統的建造物の維持補修を行う伝統的技法を熟知した人材が少なくなっており、また、それらを支える「道具」の調達先も限られてきており、その対策が必要である。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、実態調査が十分にできない状況で複数年かけて地道に情報収集に取り組む必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>県内の伝統的建造物を着実に未来に継承していくために、人材の育成支援及び道具の伝承に向けて、長期的視野に立った取組が必要である。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【○○課】
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	